

# 哲 學 研 究

第十卷第八册

第三百三十三號

大正十四年八月一日發行

呪術の發生に關する問題……………文學士 宇野圓空

古代支那人崇拜の大神、特に「五祀」に就て……………

文學士 浦川源吾

菅家遺誠とその和魂漢才說……………文學士 加藤仁平

社會學の一元論的方針とモナド論的方針……………

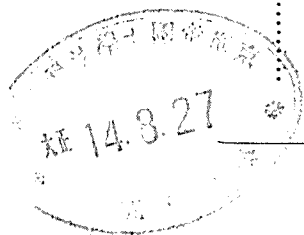
文學士 淡 德三郎

印度のビルローン……………文學士 羽 溪 了 譚

新著紹介……………

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會



## 京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得  
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體、其團體ノ名ヲ以テ入會ス  
ルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納  
スベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、  
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士		
伊藤	植田	狩野	小西	高坂	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	務臺	米田
猷典	壽藏	直喜	重直	正顯	專太	武次	胤成	三十郎	幾多郎	俊夫	精一	康算	治郎	健三郎	文三郎	理三郎	太一郎

# 前 號 目 次

現代に於ける教育學の基礎付け(三).....	文學士	長 田 新
菅家遺誠とその和魂漢才說.....	文學士	加 藤 仁 平
直觀知と物自體(承前).....	文學博士	田 邊 元
惡に就て.....	文學博士	西 晋 一 郎
理念に就いての歴史的と非歴史的.....	ロバート・シンチンゲル	

告 會

一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候  
 二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪〇六六三番 内外出版株式會社内京都哲學會テニ御拂込被下度候  
 二、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候  
 ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎ 振替貯金にて御送金 (振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番) 内外出版株式會社宛に願上候  
 ◎ 前金切れの場合は帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	數一定	價一郵	稅
一冊	冊 金 四 拾 錢 一 金	壹	錢
六冊	冊 (前金) 一 金 貳 圓 四 拾 錢 一 金	申	受
十二冊	冊 (前金) 一 金 四 圓 八 拾 錢 一 金	申	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十四年七月廿五日印刷納本  
 大正十四年八月一日發行  
 第百十三號 第十卷 第八册

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

編輯者 伊藤 猷 典

右代表者 大谷 仁 兵 衛

發行者 田 中 和 一 郎

印刷者 田 中 和 一 郎

製複許不  
載轉禁

發行所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版株式會社

振替口座 大阪三二九五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南  
 出張所 京都市京橋區加賀町十番地  
 販賣所 京都市神田區錦町一ノ一 内外出版株式會社

賣捌所 (大阪) 盛文館 東京 上田屋 東海堂 北隆館  
 (神戸) 寶文館 三誠社  
 (京都) 共盛社 川瀨書店

神戶市 學 金生喜造 譯 著 ヴァインデルバント 原著

最新刊

近代獨逸人の精神生活の哲學

本書は新カント派の碩學西南ドイツ派の頭目ヴァインデルバントの名著を暢達なる筆を以て的確に翻譯したものである。凡て人間行爲の背後に潜んで生活の原動力となるものは思想であり哲學であるが、近代思想の諸體系を簡明に示し、その發展の有様を心ゆくばかりに解説すること本書の如く優れたるものはあるまい。現代人の悩ましき生活、混亂せる社會相の深奥に沈潜してその謎を解く鍵とすその暗を照らす光とを提供するものは本書である。伽藍堂棟を炎上せしめた戀の尼僧の生活の如きは本書の『美的哲學の體系』にその解釋を求むべく、上海香港の暴動の如きは『群集は前進す』といふヘーゲルの名言を以て説き起したる一篇に就いて説明を聴くことが出来る。

四六判 袖裝	三 百 頁	定價 金貳 圓	書留送料 拾八錢
--------	-------	---------	----------

(大正五年四月六日)大正十四年七月二十五日印刷納本(毎月一回)第三種郵便物認可(大正十四年八月一日發)行(一日發行)

哲學研究 第百十三號

定價金四十錢 郵税金壹錢

東 京 神 田 錦 町 一 九 一 九 號 東 京 振 替 會 社 外 出 版 株 式 會 社 東 京 大 三 九 一 番 南 條 七 院 洞 西 市 都 京 本 社